

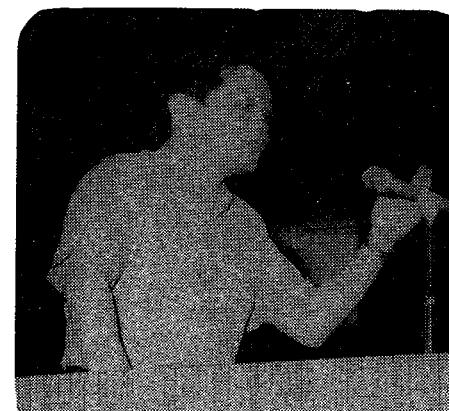
日刊 動労千葉

86. 9. 15
No. 2351

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)二九三五六・(公衆)〇四七二二(22)七二〇七

全国の現場で苦闘を続いている仲間達に、今こそ大同団結をして共同行動を職場からすすめていかなくてはいけないという思いで今日の集会を呼びかけを行つた張本人ですが、なぜ私がそういう呼びかけを発しなくてはならなかつたかということを話したい。



10-11月あらゆる手段で「総決起し、10・12国会大アモに大同団決・総決起しよう!」
——「提起」にたつ 中野委員長

國労組合員が本線乗務からはずされるという攻撃が日常的にかけられているのだ。

ふたつには、動労と当局をめぐる動きである。

動労は、八月二十四日の動労全国地本三役会議をもつて國労解体を具体化しはじめた。國労解体・動労組織拡大が進んでいない状況に危機感をつのらせ、松崎は大号令をかけた。九月の臨時国

会が開催され先陣を切つた北海道本部は「柔軟路線」を決めたとたんに自動車支部がそつくり國労脱退してしまつた。

全國大会で「大胆な妥協」を決めたから國労に対する分裂・解体攻撃が弱まつたか?流れはとまつたか?まつたく逆だ。國労は十三万台に落ちこんでしまつた。

この情況の中で、現場の國労組合員は、中央の指令も闘う方針もないまま当局・動労・鉄労・真國労の組織破壊攻撃に対して人活センターにもつていかれながらもがんばりぬいている。

しかし、中央の屈服路線の中で攻撃は、せきを切つたよう進んでいる。特徴的として、高崎での動労組合員を営業・施設へ送りこみ、玉突きで國労組合員が余剰人員化されていく。その過程で國労においては雇用を守れない。また、東京・新橋を中心とした運転職場では、全国から広域配転が送りこまれ、脱退しろとの攻撃がかかっている。ま

た、國鉄当局は、新しい会社にいけることがいいことのように宣伝している。

敵は何をやつても許さない

八月二七日、「第一次労使共同宣言」がだされた。「第一次」は、来年三月三一日には全部排除しろ」と当局に正式に申し入れた。確実に亀裂が生じていて。

分割・民営化攻撃とは、國鉄労働者の決起なくしては粉砕できない。いま人活センター等を起点として、不屈な反撃が全国いたる所で起きつていて。強固な闘いを展開し、矛盾を徹底的に突きまくるならば、反撃し勝利することは全く可能である。

運輸省の概算要求における「精算事業団」の予算総額、八五年度監査報告、整備新幹線と分割・民営化方針の欺まん性が現実となってきた。

この状態を開拓し、この矛盾を拡大していくには、國鉄労働者が団結し、強固な闘いを展開し、矛盾を徹底的に突きまくるならば、反撃し勝利するこ

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!

中野委員長提起!! 97 國鉄労働者 全國交流集会

しかも新しい会社の主流派をめざす労組がいつさい闘わない。すべて協力するといつてはいる。新事業体が健全経営になるには大合理化と低賃金のもと、二十二三十年かかる。二〇一億スト損賠もそうだ。

このようなことが國労の「柔軟路線」のもとでやられ、当局は國労が譲歩すれば、その先までいってしまう。敵は何をやつても許さない。國鉄労働運動の中心の國労を完膚なきまで解体しつくさない限り分割・民営化攻撃の本質が終らないと敵ははつきりと知つている。

しかし、一見強固に見える敵の側にも大きな亀裂と矛盾がうまれている。自分達のセクト的利害で結合している連中と、当局官僚が入り乱れて醜態を晒けだしている。

